

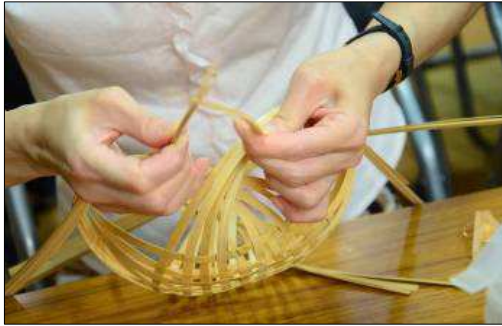
施設名	銘竹問屋「横山竹材店」
住所1	事務所・工房：京都市上京区油小路通下長者町上る亀屋町135
住所2	ショップ・ショールーム：京都市上京区油小路通下長者町上る亀屋町155
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・住所1：075-441-3981 ・住所2：075-432-3620 ・Website（兼オンラインショップ）：http://www.yokotake.co.jp/index.htm （英語サイトあり） ・Facebook：https://www.facebook.com/yokotake.bamboo
	<ul style="list-style-type: none"> ・ショップ・体験（ショールーム）：8：30～18：00、日曜・祝日は休み ショップでは竹製の小物商品を販売
現在の客層	<ul style="list-style-type: none"> ・国内：一般観光客、修学旅行・社会見学 ・海外：一般海外観光客（FIT）
研究会ねらい	<p>創業から約100年、京都で町家や茶室に使われる建築用竹材や室内装飾などの竹製商品を提供されてこられました。京都花灯路にも行灯を提供されるなど、国内外の観光客を魅了しています。ショップやオンラインショップでは一般個人客に多くの竹製小物を販売され、またショールームでは竹細工の体験プログラムを提供され外国人にも大変好評とのことでした。</p> <p>竹がどのように商品として設えられるのか、体験や工房の見学を通じてお話を伺い知見を深めます。</p>
事業者取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数：10名 （宿泊施設コンシェルジュ、交通会社営業、旅行業コンサルタント、外国人向け観光ガイド・通訳 他） <会社概要> ・これまで数々の著名な建造物、庭園に竹材の提供、施工をされてきた。 ドラマ「水戸黄門」の黄門様の杖は放送当初から横山竹材店製のもの。 最近の代表的な仕事では京都迎賓館の竹垣施工を担当した。 <竹の概要> ・日本には多種多様な竹が存在。海外（特に欧米）にはそもそも竹がなく外国人には珍しい。 ・形も円柱のものだけでなく、四角のものや、亀甲竹と言われる亀の甲羅のような竹、太さも様々。色も青竹から立ち枯れさせてカビを入れた錆竹といわれるサビた色のもの、燻竹と言われる100年ほどかけて町家の囲炉裏の煙で燻された重厚な茶色がかった竹もある。珍しい竹になると希少価値が付き、一本で100万円以上になることも。
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <意見交換会> Q：植物なので輸出通関などのハードルがあるのではないのか？どう対処されているか。 A：検査検疫については専門の会社をお願いしており、問題はクリアできている。 Q：海外に持っていくと気候などの変化で竹が傷んでしまったりしないのか？ A：気候に左右されてしまう。よって例えば初めから竹を割るなどして気候や時間の経過に対応できるような技術がある。竹の加工については京都は世界一の技術を持っている。 Q：忙しくなるのはいつか？ A：竹の収穫時期である10月頃から忙しくなる。 Q：体験に関して、安全面の配慮は？ A：小さい子供にはハサミやヤスリなどは使わせない。店で製作補助する。 Q：どこから竹を持ってきているのか？ A：左京区岩倉地域、右京区の方から譲ってもらっている。



竹かごの製作を体験（この日は店側で途中まで作成済）



一人ひとり丁寧に教えてもらえます



水をつけると驚くほどに柔軟に曲がります



1時間少してここまで



1時間半でほぼ完成へ



併設ショップ。中央の杖はドラマ「水戸黄門」で使用



四面角竹（四角に育つよう矯正、模様を入れている）



工房内。専務横山様による解説（中央の竹は錆竹）



煤竹（写真中央）写真のものは百万円程



亀甲竹（写真中央）突然変異でできる珍しい竹